

## 桜満開、春うらら

～ にかほ市観桜会～

4月19日、勢至公園で市観光協会が主催する観桜会イベントが行われました。勢至公園は、桜の開花が県内で最も早いことから、いち早く桜を楽しみたいという観光客が県内外から大勢訪れ、大きな賑わいをみせました。

今年の開花状況については、気温の高い日が続いたことや食害が少ないことなどから、園内のソメイヨシノの花付きが良いとのことでした。

この日、午後から行われたイベントでは、公園内に設置された特設ステージにおいて、金浦神楽や、フラダンスのほか、市内ダンスサークルのパフォーマンスなどが行われました。イベントの最後にはフォークデュオ「ケースケ・マサ」の演奏が行われ、満開の桜が咲き誇る公園に歌声を響かせ、会場を盛り上げました。

大仙市から家族と一緒に訪れた観光客の一人は「県内で一番早く桜が咲くということで、見に来た。景色もきれいで春を満喫することができて良かった」と語っていました。

また、観桜会では新たな試みとして、4月18日から20日までの期間限定で、勢至公園スペシャルライトアップが行われ、日没から午後9時までの間、幻想的な夜桜の風景を楽しむことができました。

## 心と体を鍛えるぞ！

～ にかほ市スポーツ少年団入団式～

4月19日、金浦小学校を会場に、平成26年度にかほ市スポーツ少年団入団式が行われ、新団員と昨年度途中入団した計147人に団員章が授与されました。

授与式では、一人ひとり名前を呼ばれ登壇し、各チームの代表団員が中津本部長から団員章を受け取りました。

団員らは、本部長や先輩団員からの歓迎や励ましの挨拶を凛とした表情で聞き、心と体を鍛えることを心に誓いました。新団員の仁賀保剣道スポーツ少年団・齋藤颯くんは「先生や先輩の指導を良く聞いて、早く上手になりたいです」と抱負を語ってくれました。



団員章を受け取る金浦サッカースポ少の団員

## 新たな雇用の場、創出への大きな一歩

～ 秋田オイルシールとの立地協定調印式～



官民が力を合わせて、次世代の産業を創る

4月11日、市役所象潟庁舎において、自動車用ゴム製品等を製造している株式会社秋田オイルシール（秋田県三種町）との立地協定調印式が行われました。これは、市が5年間無償で貸し出す金浦臨海新産業支援センターへ入居が決まったことで行われ、平成27年3月の操業、約70人の雇用が計画されています。

調印式で秋田オイルシール金谷信栄社長は「市長の熱意により、にかほ市へ新工場の進出を決めた。製造業が盛んな地域であることから技術を持った方の人材確保や次世代エネルギーの技術開発を進めたい」と語りました。

## 小さな命に願いをこめて

～ サケ稚魚放流～

4月10日から17日にかけて、市内7つの小学校でサケの稚魚放流体験学習が行われました。これはサケの生態を学び自然環境保護や漁業への関心を高めてもらうことを目的に毎年開催されており、今年も川袋川、奈曾川、象潟川、大沢川で約19万匹が放流されました。

4月15日、象潟川で行われた稚魚放流では、金浦小学校3年生児童（34人）が5cmほどの稚魚約3万匹を放流しました。参加した阿部竜征君は「たくさんのサケが大きくなって帰って来て欲しい」と願いを込めながら放流を行っていました。



小さな稚魚を優しく川へ放流

## はしれ、上へ！災害への対応力

～ いのちを守る講演会（にかほ市元気づくり応援事業）～

4月17日、にかほ市精神保健ボランティアほたるの会主催「いのちを守る講演会～津波からいのちを守った子ども達～」が象潟公民館を会場に行われ、絵本作家の指田和氏が講師に招かれました。

講演では、大津波が目の前に迫るなか岩手県釜石東中学校の生徒が、小学校の生徒達を誘導して高台に避難し、全員の命が助かったエピソードをもとに制作した絵本『はしれ、上へ！』を題材に、いつ起こるか分からない災害に備えることの大切さや、ごく普通の子も達を守った尊い命の話、熱く語りました。



命を守るために、今、防災力が求められる